

第5学年 社会科 学習指導案

1. 単元名『くらしを支える情報』

(教科書：『小学社会5下』p.2～27／学習指導要領：内容（4）ア，イ）

2. 単元の見どころ

- (1) 放送、新聞などの情報産業が様々な情報を提供し、自分たちの多くがそれらを多方面で利用していることについて、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。
- (2) 情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている医療、防災、福祉、教育などの事例について資料を有効に活用したり、インターネットで情報を収集したりして調べ、それらのはたらきが、人々の生活を向上させるために利用され、自分たちの生活にも様々な影響を及ぼしていることについて、とらえることができるようにする。
- (3) 情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身につけるようにする。

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
情報産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもち、情報を有効に活用しようとしている。	情報産業や情報化した社会の様子と国民生活とを関連づけて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。	資料活用や聞き取り調査などから、情報化した社会の様子について必要な情報を集め、適切に読み取っている。	情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

これまでの社会科では、日本の食料生産や工業生産について学習してきた。その中で、統計や資料を活用して人々の工夫や努力などを考え、社会的な見方や考え方を少しずつ高めてきた。児童は、テレビやパソコン、携帯電話など様々なメディアに囲まれ、たくさんの情報と向き合って生活している。しかし、自分たちの生活が情報ネットワークによって支えられていることに気づいていない。

そこで、本単元では、4年生時に学んだ「函館大火」の学習と関連づけた学習活動を展開し、情報技術が発達する以前の様子を調べて現在と比較する活動を通し、情報ネットワークによって自分たちの生活がより安全になったことを考えさせたい。さらに、情報ネットワークにかかわる関連図作りを通して、多様な考えに気づかせ、比較・関連・総合して見たり考えたりする力を高めていくとともに、ゲストティーチャーの活用により、情報ネットワークについての確かな見方や考え方を

もたせたい。

(2) 教材について

児童にはとらえにくい「情報」というものの本質に迫っていく授業の開発を行ってきた。そのため、児童にとって課題がより身近で切実なものである必要があると考えた。そこで用いたのが地域素材「函館大火」である。1934年の「函館大火」は、死者 2166 名を出した函館の歴史の中でも最も悲惨な災害である。被害を拡大させた原因の一つに「情報」の問題があったことを児童に気づかせ、自ら「問い」をもちながら学習を進めさせるようにしたい。

また、「函館の防災にかかわる情報ネットワーク」の学習においては、公共機関どうしの情報ネットワークがある場合（現在）と情報がつながらない場合（過去）とを比較する活動を行う。この活動により、情報ネットワークの価値がより明確なものになると考える。この際、体験活動を効果的に取り入れることで、課題解決に向かう姿勢が継続され、新たな課題を見つけ出すことができると考えている。

5. 小単元の指導計画（総時数 11 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① ② 身のまわりにある情報を探ろう	日常生活の中で得られる情報やそれを入手する方法について話し合うことを通して、情報について興味や関心を持ち、すすんで調べることができるようにする。	○わたしたちはどのようにして情報を得ているのか考える。 テレビからどんな情報が得られるのだろう。 ○新聞の番組欄を用いて自分が見た番組を確認し、テレビからどんな情報を得たのかを考える。 ・今日の天気 ・スポーツの試合 ・芸能人のこと・アニメのこと ○大人はテレビからどんな情報を手に入れているのかを予想する。 ・最近の事件や事故 ・政治経済 ・天気 ・災害 ・外国の出来事 ○聞き取り調査した結果を表にまとめ、分析する。 ・大人は、ニュースをよく見ていることがわかったね。 わたしたちは、テレビからさまざまな種類の情報を得ている。	◎クラスの友だちと自分の家族に「何からどんな情報を得ているのか」をインタビューし、まとめたもの ◇大人と子どもの見る番組を比較する活動を通して、日常生活で得られる情報にはどんなものがあるのかを分析させたい。 ◇「情報」という言葉の定義を確認する。 ◆日常生活の中で得られる情報やそれを入手する方法について話し合うことを通して、情報について興味や関心を持ち、すすんで調べている。 （関・意・態／発言） ◆聞き取り調査の結果を表にまとめ、結果を読み取っている。 （技／表、発言、ノート）

		○ニュースはどのように伝えられるのかという学習課題をもち、ニュースの情報をどのように役立てているのかを考え、発表し合う。	
③ ④ ⑤ ニュースの作られ方を探ろう	テレビのニュースが伝えられるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきや、情報と自分たちの生活とのかかわりについて考え、表現できるようにする。	ニュースはどのようにして伝えられているのだろう。 ○NHK函館放送局を見学する。 ○ニュースができるまでの流れを図にまとめる。 - 取材→打ち合わせ（選択）→編集、字幕制作（加工）→放送 - 伝える人たち「アナウンサー」「カメラマン」「技術ディレクター」 - より速く、正確に、わかりやすく伝えることを大切にしている。 取材で得た情報を選択・加工し、より速く、正確に、わかりやすく伝えるように努力している。	◎NHK 函館放送局でもらったパンフレット ◎見学中の写真，見学メモ ◇ニュースがどのように作成されているのかを調べ、流れ図にまとめる。 ◇たくさんの人がニュース作成に携わっていることを確認する。 ◆テレビのニュースが伝えられるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきについて調べたことをまとめている。 (技／ノート，流れ図)
		わたしたちは、情報をどのようにして手に入れ、生かしているのだろう。 ○情報を得る手段について話し合う。 ○どんな情報が得られ、どのように役立てているかを考える。 - わたしたちの生活は、情報に支えられている。 ○情報を得る手段を比較する。 - 天気予報をすぐ知りたいときは「テレビ」や「インターネット」、事件や事故の詳しい内容を知りたいときは「新聞」、災害などの緊急時には携帯できる「ラジオ」が便利。	◎「どうして大人は、天気予報やニュースを見るのか」をインタビューし、まとめたもの ◇各メディアの特色を考え、長所と短所をとらえる。 ◇各種メディアの特色を知り、使い分けることが大切であることを確認する。 ◇情報の活用によって暮らしが豊かになるということを確認する。 ◆自分たちの生活が情報に支えられていることを理解する。 (知・理／発言，ノート)

		○各班のもっている情報を伝え合い、再度、避難経路を考える。 ・大森浜は荒れているので、新川橋を避けて、東へ避難させよう。 ・新川橋を避け、風向きを考えて避難させよう。 たくさんの人たちを救うためには、情報を共有することが大切だ。 情報ネットワークと自分たちのつながりを考えよう。 ○緊急地震速報を聞いたり、災害対策本部の存在を確認したりして、情報ネットワークと自分たちのつながりを考える。 ○ワークシートをもとに、メディアとのつながりを考える。 ○ゲストティーチャー（市役所の担当者）に話を聞く。 災害対策本部の人たちは、さまざまな情報手段によって、みんなに、正確な情報をすばやく伝えるよう努力している。	◇「情報ネットワーク」という言葉の定義を確認する。 ◆よりよい救出方法を見つけ出す活動を通し、情報を共有することの利点に気づき、考えたことを適切に表現している。 （思・判・表／発言，ノート） ◎自分以外の様々な人のケースを提示して、メディアとのつながりを考えさせるワークシート ◇情報ネットワークにより、自分たちの命や生活が守られていることを確認する。 ◇情報ネットワークがさまざまな場面で活用されていることを確認する。 ◆資料をもとに、防災における情報ネットワークの役割について考え、適切に表現している。 （思・判・表／発言，ノート）
⑨ ⑩ ⑪ 情報を上手に使いこなす	身のまわりの情報が生活に及ぼす影響について、意欲的に調べることができようにする。 情報を受信したり、発信したりする際の問題点を考え、標語として表現する。	インターネットを利用するとき、どんなことに気をつければよいだろう。 ○インターネットの長所を考える。 ・メールで、遠くの人とやりとりができる。 ・画像や音声を、送受信することができる。 ・わからないことを、調べることができる。 ○資料をもとに、問題点を考える。 ・迷惑メール ・間違った情報	◎インターネットの利用で起きた事件や出来事の新聞記事、ニュース映像 ◇インターネット利用で便利なこと、インターネット利用時に起こる様々な問題点を確認する。

	・詐欺 ○受信する立場と発信する立場の両方から、気をつけることを考える。 インターネットを利用するときは、情報に対して適切に判断し、ルールやマナーを守ることが大切である。	◆インターネットの利用時における問題点を理解している。 (知・理／発言，ノート)
	わたしたちのくらしと情報について、大切なことを標語にして表そう。 ○今までの学習を振り返る。 ○それぞれが思う大切なことを標語に表す。 ・「大切にしよう 人とのつながり 情報ネットワーク」 ・「ルールやマナー 守って使おう インターネット」 ・「ニュースはね 速く正しく わかりやすく」	◇今まで学習してきたことを総合して、情報化した社会の中で自分たちが生活するときに大切なことを考える。 ◇自分たちが表した標語を、生活の中に生かしていくことを意識づける。 ◆情報化社会を生きていくために大切だと考えることを標語にして表現している。 (思・判・表／標語)

6. 本時の指導

①第7時

(1) 本時のねらい

「函館大火」当時の情報に基づき、よりよい救出方法を見つけ出す活動を通し、情報を共有することの利点に気づき、考えたことを適切に表現できるようにする。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○前時までの活動を振り返る。 T：警察・消防・気象台・市役所の四つの班に分かれて、大火の時の情報から、避難経路を考えてもらいましたね。 ○本時の学習課題を把握する。 もっている情報を生かし、たくさんの人たちを救うための避難経路を考えよう。 ○各班で前時に考えた避難経路を発表し合う。	◎避難経路を描いた白地図 ※各班がもつ情報は以下のとおり。 警察：大勢の人たちが大森浜に向かって逃げている。新川橋が壊れている。 消防：出火場所は住吉町。 気象台：南風から西風に変わる。大森浜は大荒れ。気温はマイナス。

	C: 多数の人が大森浜に向かっているので、大森浜に避難させます。 T: 大森浜は、波が高いので助かりませんでした。 C: 出火場所が、住吉町なので、新川小学校へ避難させます。 T: 途中で風向きが変わり、新川小学校も焼け、助かりませんでした。 C: 他の班の情報を知りたいです。	市役所: 避難所には食糧と毛布がある。 
15	○各班がもつ情報をお互い共有し、もう一度、救出方法を考える。 T: それでは、各班のもつ情報を他の班へ伝えてください。 T: (情報を共有したあと) 新しい情報をもとに、避難経路を考えましょう。 ○新しい情報をもとに、避難経路を発表する。 C: 住吉町が出火場所だから、大森浜に逃げたいと考えたけど、気象台の情報で海が荒れていることがわかったから、海を避けた方がいい。 C: 宝来町から栄町、宮前町、五稜郭橋を通り、五稜郭に行くといい。避難所には、食糧と毛布があることがわかったので、気温がマイナスでも助かります。 C: 新川橋は壊れているから通れない。南風から西風に変わるから、東本願寺にも逃げられない。五稜郭方面に避難した方がいい。 T: みなさんの避難経路では、たくさんの人たちを助けることができそうですね。 T: みなさんのように、様々な公共機関が情報を共有した状態のことを「情報ネットワーク」と言います。	◇情報ネットワークのある場合(現在)とない場合(過去)を比較する活動を通し、情報ネットワークの利点を考えさせる。 ◇「情報ネットワーク」という言葉の定義を確認する。
15	○本時の学習をまとめる。 たくさんの人たちを救うためには、情報を共有することが大切だ。 ○学習を振り返る。 C: ぼくは、情報のすごさがわかりました。人を助ける力があります。ぼくたちは、情報の中で過ごしていることがよくわかりました。 C: わたしは、情報を共有するとたくさんの人たちが助かることがわかりました。	◇自分の考えをノートに書いて発表するよう指示する。 ◆よりよい救出方法を見つけ出す活動を通し、情報を共有することの利点に気づき、考えたことを適切に表現している。 (思・判・表／発言、ノート)

②第8時

(1) 本時のねらい

資料をもとに、防災における情報ネットワークのあり方について考え、適切に表現することができるようになる。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○前時までの活動を振り返る。 T: たくさんの人を救うためには、情報を共有することが大切でしたね。情報を共有している状態を「情報ネットワーク」と言いましたね。 ○本時の学習課題を把握する。 情報ネットワークと自分たちのつながりを考えよう。 ○情報ネットワークと自分たちのつながりを考える。 T: (緊急地震速報を聞いたあと) このとき、自宅に一人しているとしたら、どんな情報を知りたいですか。 C: 地震がどこで起こったか。津波はくるか。 C: 親や家族がどこで何をしているか。 C: どこへ避難するとよいか。 T: このような情報を「何を使って」知ろうと思いますか。 C: テレビ、インターネット。 T: 市には「災害対策本部」があり、ここから情報がテレビなどに伝えられます。四つの機関(警察・消防・気象台・市役所)がつながっているとよいことは何でしたか。 C: より正確な情報になる。	◎緊急地震速報の音声 ◇緊急地震速報を聞かせることで、課題への関心をもたせる。 ◇子どもの思考が広がるような場面設定をする。
15	○ワークシートを用いて、様々なケースにおけるメディアとのつながりを考えさせる。 T: この人たちはそれぞれ、どんなメディアを使って情報を得ているのでしょうか。 ①地震でテレビがこわれてしまったおばさん ②テレビ、スマホ、パソコンのないおじいさん ③停電して電気が使えない一人暮らしのお兄さん ④スマホを忘れて港に釣りに来たおじさん ⑤周りに人が住んでおらず、メディア機器もこわれてしまったおばあさん C: ①は、スマホ、ラジオ。	◎自分以外の様々な人のケースを提示して、メディアとのつながりを考えさせるワークシート 

	C : ②は、ラジオ。 C : ③は、くるくる回して発電するラジオ。 C : ④は、ラジオかな？車に戻ってカーラジオをつけたり、人を探したりするのかな。 C : ⑤は、新聞かな？電光掲示板や、通る人を待つとか。 T : 災害対策本部の人は、④⑤の人たちを救うことをあきらめるでしょうか。 C : あきらめない。 T : では、どのようにして情報を伝えたり、助けたりするのか、聞いてみましょう。 ○ゲストティーチャー（市役所の担当者）の話を聞く。 ・ 正確な情報をすばやく知らせることが大切。（情報を伝える手段） ・ テレビのテロップ ・ コミュニティFMラジオ ・ 緊急速報メール，ANS INメール ・ 防災行政無線，ハザードマップ ・ 避難所や町会へのFAX ・ 広報車 ・ 市のホームページ ・ 衛星通信回線，Jアラート など ○再度，情報ネットワークのつながりを確認する。 ・ ④の場合は，防災行政無線が役立つ。 ・ ⑤の場合は，ハザードマップや広報車が役立つ。	◇情報ネットワークにより，自分たちの命や生活が守られていることを確認する。 ◇情報ネットワークが様々な場面で活用されていることを確認する。
15	○本時の学習をまとめる。 災害対策本部の人たちは，さまざまな情報手段によって，みんなに，正確な情報をすばやく伝えるよう努力している。 ○学習を振り返る。 C : 災害対策本部の人たちは，防災行政無線や広報車を使って，いろいろな人に情報を伝えてくれていることがわかった。 C : 様々な情報ネットワークがあって，私たちの生活が守られていることがわかった。	◇自分の考えをノートに書いて発表するよう指示する。 ◆資料をもとに，防災における情報ネットワークの役割について考え，適切に表現している。（思・判・表／発言，ノート）